



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社博展

コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 玉井 昭

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	6,510	10.6	△280	—	△288	—	△276	—
28年3月期第3四半期	5,885	—	91	—	86	—	53	—

(注)包括利益 29年3月期第3四半期 △295百万円 (—%) 28年3月期第3四半期 52百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△72.17	—
28年3月期第3四半期	14.38	14.17

(注)当社は平成27年3月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成28年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。また、平成29年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	4,720	997	20.7	253.12
28年3月期	4,456	1,282	27.8	331.87

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 975百万円 28年3月期 1,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,933	10.4	△340	—	△350	—	△320	—	△83.45

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社スプラシア、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	3,855,200 株	28年3月期	3,737,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	— 株	28年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	3,827,824 株	28年3月期3Q	3,702,147 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
4. 補足情報	10
(1) (要約) 四半期個別貸借対照表	10
(2) (要約) 四半期個別損益計算書	11
(3) 生産、受注及び販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、経済・金融政策を背景とした緩やかな景気回復基調が続いておりますが、中国をはじめとするアジア新興国の景気下振れへの懸念や各国政治情勢の変動等、依然留意が必要な状況で推移いたしました。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界におきましても、経済動向の不透明感に影響を受け、販促イベント開催や合同展示会への出展等、一定の底堅いニーズは継続しているものの、市場環境はほぼ横ばいの水準で推移しております。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING」(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)の実現に向け、Experienceマーケティングサービスの提供を通じて、クライアントから永続的に選ばれるマーケティング・パートナーへと進化すべく、新たな市場・サービス領域への挑戦に重点を置きながら各事業を推進してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、65億10百万円(前年同四半期比10.6%増)となりました。しかしながら、クライアントの多様化する課題の解決及び複雑化したプロジェクトに関わる専門スキルを有する人材投資や業容拡大に伴う事業基盤整備費用、また進化を続けるデジタル・テクノロジーを掛け合わせた次世代型マーケティング&コミュニケーションのためのAI・コグニティブ投資関連費用等が増加した結果、営業損失は2億80百万円(前年同四半期は営業利益91百万円)、経常損失は2億88百万円(前年同四半期は経常利益86百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億76百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益53百万円)となりました。

なお、当社の当第3四半期累計期間における売上高は、60億72百万円(前年同四半期比10.4%増)となりました。営業損失は72百万円(前年同四半期は営業利益1億90百万円)、経常損失は79百万円(前年同四半期は経常利益1億85百万円)、四半期純損失は株式会社アイアクトの株式取得価額について、直近の業績見込み並びに来期の事業計画等を勘案した結果、当初の利益計画には及ばないことが明らかになったため、株式取得時の投資価値は毀損していると判断し、関係会社株式評価損219百万円を特別損失に計上したことにより、2億77百万円(前年同四半期は四半期純利益1億22百万円)となりました。

当第3四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。また、第1四半期連結会計期間に完全子会社化したスプラシアは「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に含んでおります。詳細につきましては、「3 四半期連結財務諸表 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業

リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業におきましては、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。

今までにない体験価値をリアルとデジタルの融合によって創出し、クライアントのブランド価値や売上拡大に繋げる施策や手法を提案・提供してまいりました。イベント・展示会市場での価格競争は依然として厳しくなっているものの、全国展開での体験型イベントプロモーションの受注や来場者向けのデジタルアプリケーションを掛け合わせたイベントなど、クライアントの課題解決に応える新たなサービス拡充等により、当第3四半期連結累計期間における売上高は60億72百万円(前年同四半期比10.4%増)となりました。一方、利益面につきましては、競争環境の変化に伴うコンペ案件の増加等の受注獲得コストの上昇や売上構成の変化に伴う売上総利益率の変動、拡大する業容に対する先行投資の増加及びこれらの投資に対応する新たな売上獲得と業務効率の最適化の実現が遅れた結果、セグメント損失は1億9百万円(前年同四半期はセグメント利益1億81百万円)となりました。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業におきましては、インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタルテクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

クライアントの課題解決や新たなコミュニケーション創出のための新サービスの研究開発機能の強化、高い技術力を持つオフショアでのラボ型開発機能の強化など、時代のニーズを先取りした制作体制の構築と研究開発に重点を置き事業を推進してまいりました。なかでも、次世代型マーケティング&コミュニケーションのためのAI・コグニティブ・サービスの研究、新型コミュニケーション・ロボットの開発など、将来性の高い事業への先行投資に注力した結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は5億45百万円(前年同四半期比34.5%増)、セグメント損失は75百万円(前年同四半期はセグメント損失52百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計47億20百万円(前連結会計年度末比5.9%増)、負債合計37億22百万円(前連結会計年度末比17.3%増)、純資産合計9億97百万円(前連結会計年度末比22.2%減)となりました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は32億70百万円(前連結会計年度末比3億40百万円減少)となりました。これは、受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比5億44百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は14億49百万円(前連結会計年度末比6億3百万円増加)となりました。これは、スプラシアを子会社化したこと等に伴い、無形固定資産が前連結会計年度末比5億33百万円増加したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は20億12百万円(前連結会計年度末比29百万円増加)となりました。これは、主に業容拡大しているリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業における事業運転資金のための新規借入を行ったことにより、1年内返済予定の長期借入金が前連結会計年度末比4億24百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は17億10百万円(前連結会計年度末比5億18百万円増加)となりました。これは、主にデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業における戦略的M&A投資のための新規借入を行ったことにより、長期借入金が前連結会計年度末比4億59百万円増加したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は9億97百万円(前連結会計年度末比2億84百万円減少)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと等により利益剰余金が前連結会計年度末比3億28百万円減少したことが主な要因となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年2月7日の「特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、株式会社スプラシアの株式を100%取得し子会社化したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。なお、同社は特定子会社に該当していません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更してあります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ719千円減少してあります。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用してあります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,461,109	1,463,339
受取手形及び売掛金	1,783,639	1,239,002
製品	4,188	4,535
仕掛品	228,714	247,711
原材料及び貯蔵品	3,498	4,432
その他	134,961	315,049
貸倒引当金	△4,673	△3,145
流動資産合計	3,611,438	3,270,925
固定資産		
有形固定資産	209,589	230,525
無形固定資産		
のれん	117,765	273,678
その他	355,697	732,853
無形固定資産合計	473,462	1,006,532
投資その他の資産		
その他	163,712	213,391
貸倒引当金	△1,335	△1,340
投資その他の資産合計	162,377	212,051
固定資産合計	845,429	1,449,109
資産合計	4,456,867	4,720,034
負債の部		
流動負債		
買掛金	641,249	380,092
1年内返済予定の長期借入金	769,592	1,193,844
未払法人税等	122,512	488
賞与引当金	159,337	68,600
工事補償引当金	9,208	7,086
工事損失引当金	—	1,128
その他	280,650	360,969
流動負債合計	1,982,551	2,012,209
固定負債		
長期借入金	1,062,550	1,521,550
その他	129,584	188,584
固定負債合計	1,192,134	1,710,135
負債合計	3,174,686	3,722,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,299	174,449
資本剰余金	225,736	289,331
利益剰余金	835,842	507,251
株主資本合計	1,235,878	971,032
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,336	4,779
その他の包括利益累計額合計	4,336	4,779
新株予約権	2,336	2,276
非支配株主持分	39,630	19,601
純資産合計	1,282,181	997,690
負債純資産合計	4,456,867	4,720,034

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	5,885,057	6,510,081
売上原価	4,436,360	5,012,915
売上総利益	1,448,696	1,497,166
販売費及び一般管理費	1,356,926	1,777,273
営業利益又は営業損失(△)	91,769	△280,106
営業外収益		
受取利息	29	10
受取配当金	101	150
貸倒引当金戻入額	—	2,013
雑収入	2,403	1,766
営業外収益合計	2,534	3,940
営業外費用		
支払利息	7,295	10,587
雑損失	481	1,714
営業外費用合計	7,776	12,302
経常利益又は経常損失(△)	86,527	△288,467
特別損失		
固定資産除却損	—	4,829
のれん償却額	—	53,216
特別損失合計	—	58,046
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	86,527	△346,513
法人税、住民税及び事業税	68,472	5,594
法人税等調整額	△32,631	△55,805
法人税等合計	35,840	△50,211
四半期純利益又は四半期純損失(△)	50,686	△296,302
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,555	△20,029
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	53,242	△276,273

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	50,686	△296,302
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,785	443
その他の包括利益合計	1,785	443
四半期包括利益	52,472	△295,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	55,027	△275,829
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,555	△20,029

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,500,888	384,168	5,885,057	—	5,885,057
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	21,491	21,491	△21,491	—
計	5,500,888	405,660	5,906,549	△21,491	5,885,057
セグメント利益又は損失(△)	181,633	△52,790	128,842	△37,072	91,769

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△37,072千円は、のれんの償却額△16,377千円、セグメント間取引
△20,695千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	デジタルエクスペ リエンス&コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,070,834	439,247	6,510,081	—	6,510,081
セグメント間の内部売上高又 は振替高	1,750	106,515	108,265	△108,265	—
計	6,072,584	545,762	6,618,347	△108,265	6,510,081
セグメント損失(△)	△109,616	△75,689	△185,305	△94,800	△280,106

(注) 1. セグメント損失の調整額△94,800千円は、のれんの償却額△62,605千円、セグメント間取引△32,195千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんの金額が53,216千円減少しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当社グループの報告セグメントの区分は、前連結会計年度において「コミュニケーションデザイン事業」及び「Webインテグレーション事業」としておりましたが、第1四半期連結会計期間より「リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」及び「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に変更しております。

これは、従来Webインテグレーション事業に区分していた株式会社アイアクトの事業の変化及びタケロボ株式会社、株式会社スプラシアとの協業による様々なデジタルテクノロジーを組み合わせたサービス提供を開始したこと等により、「Webインテグレーション事業」としていた報告セグメント及び「コミュニケーションデバイス事業」としていた事業セグメントは新たに「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」として区分し、従来「コミュニケーションデザイン事業」としていた報告セグメントは新たに「リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に名称を変更しました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の区分方法により作成しております。

4. 補足情報

(1) (要約)四半期個別貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,224,522	1,247,249
受取手形	144,351	65,891
売掛金	1,486,119	1,119,831
仕掛品	195,310	195,614
原材料及び貯蔵品	2,699	3,188
その他	121,402	295,085
貸倒引当金	△3,453	△2,658
流動資産合計	3,170,952	2,924,203
固定資産		
有形固定資産	200,223	221,023
無形固定資産	190,336	233,609
投資その他の資産		
その他	688,621	1,102,367
貸倒引当金	△1,335	△1,340
投資その他の資産合計	687,286	1,101,027
固定資産合計	1,077,846	1,555,660
資産合計	4,248,799	4,479,864
負債の部		
流動負債		
買掛金	588,268	346,263
1年内返済予定の長期借入金	741,870	1,146,092
未払法人税等	122,319	—
賞与引当金	138,998	54,493
工事補償引当金	9,208	7,086
その他	255,437	332,814
流動負債合計	1,856,101	1,886,749
固定負債		
長期借入金	1,032,472	1,492,282
その他	71,155	77,829
固定負債合計	1,103,627	1,570,111
負債合計	2,959,729	3,456,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,299	174,449
資本剰余金	228,433	292,028
利益剰余金	879,664	549,468
株主資本合計	1,282,397	1,015,947
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,336	4,779
評価・換算差額等合計	4,336	4,779
新株予約権	2,336	2,276
純資産合計	1,289,069	1,023,003
負債純資産合計	4,248,799	4,479,864

(2) (要約)四半期個別損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	5,500,888	6,072,584
売上原価	4,180,171	4,696,934
売上総利益	1,320,717	1,375,649
販売費及び一般管理費	1,129,884	1,447,882
営業利益又は営業損失(△)	190,833	△72,232
営業外収益	2,288	2,902
営業外費用	7,354	9,913
経常利益又は経常損失(△)	185,767	△79,244
特別損失	—	220,968
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	185,767	△300,212
法人税等	63,436	△22,334
四半期純利益又は四半期純損失(△)	122,330	△277,877

(注) 科目の区分掲記につきましては、要約して記載しております。

(3) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。前第3四半期連結累計期間の受注状況についても、変更後の区分方法により作成しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	
	受注高(千円)	受注残高(千円)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	5,394,998	1,574,030
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	531,551	249,604
合計	5,926,549	1,823,635

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	6,180,285	114.6	2,202,821	139.9
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	576,515	108.5	300,577	120.4
合計	6,756,800	114.0	2,503,399	137.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。前第3四半期連結累計期間の販売実績についても、変更後の区分方法により作成しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	5,500,888
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	384,168
合計(千円)	5,885,057

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	6,070,834	110.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	439,247	114.3
合計(千円)	6,510,081	110.6

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。